

高温・晴天が続くことが予想されるため、 なしのハダニ類の増加に注意が必要です！（案）

1 発生状況

7月のなし巡回調査では、ハダニ類の発生ほ場率が21.4%（平年比389%）と多い状況です。関東地方では7月18日に梅雨明けが発表されました。また、気象庁発表の1か月予報（7月20日～8月19日）では、今後は気温がかなり高く、平年と同様に晴れの日が多いと予想されています。高温乾燥を好むハダニ類に好適な条件が続くため、発生増加が懸念されます。

また、本年は果樹カメムシ類が非常に多く発生しており、防除に非選択性殺虫剤が使用されることで、天敵の減少によるハダニ類の多発生を引き起こすおそれがあります。こまめに園内のハダニ類の発生状況を確認し、被害が発生する前に、適切に防除しましょう。

2 被害

なしでは、主にナミハダニ、カンザワハダニ等が発生します（写真1）。ハダニ類が寄生すると、葉裏の褐変や、葉表のかすり症状がみられます（写真2）。被害が進むと被害部の枯死・褐変による葉焼け症状を呈し、最終的に早期落葉と花芽の充実不足に繋がり、翌春の開花数減少や発芽の遅れ・不揃いが生じるおそれがあります（写真3）。



写真1 ナミハダニ（左）とカンザワハダニ（右）



写真2 ハダニ類の被害による葉裏の褐変（上）と葉表のかすり症状（下）

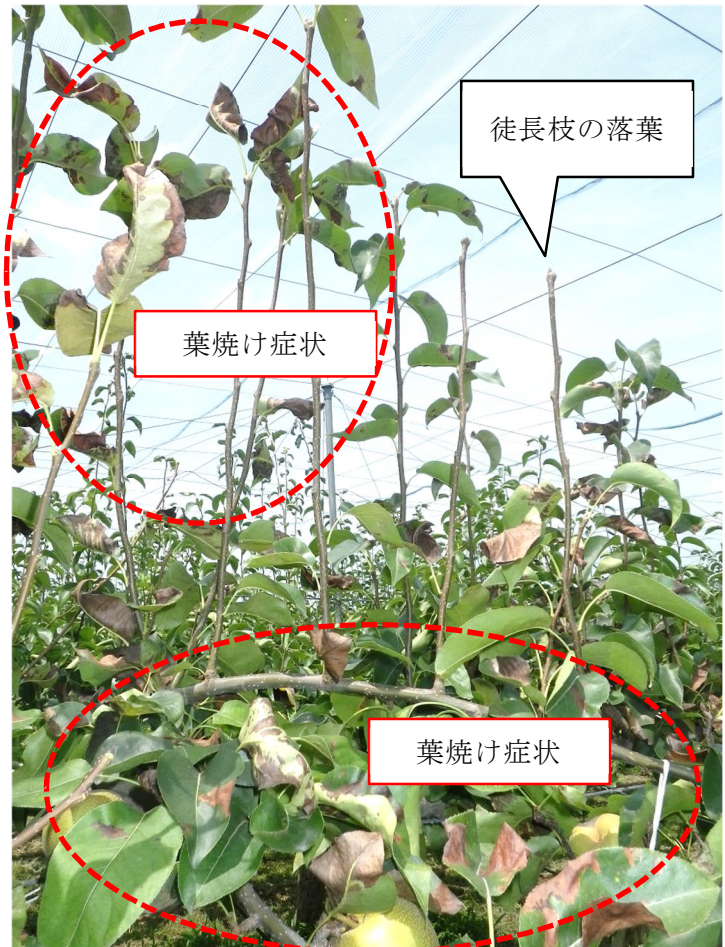


写真3 ハダニ多発園における葉焼け症状と徒長枝の落葉

3 防除対策と注意点

- ・園内の葉を観察し、写真1～3を参考にハダニ類の寄生が認められたら、表1を参考に薬剤を散布する。
- ・ハダニ類は葉裏に寄生するため、殺ダニ剤散布時には薬液が葉裏にしっかり付着するように散布する。特に、気門封鎖剤は直接かからなければ効果が得られないので注意する。
- ・一般に気門封鎖剤は殺卵効果が低いので、ふ化幼虫対策として、数日間隔をあけて複数回散布するか、殺卵効果のある薬剤を併用する。
- ・殺ダニ剤散布直後の除草は、下草のハダニ類が樹上に移動することがあるため注意する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除では、園地外周部で散布ムラが生じやすいため注意する。
- ・ダニオーテフロアブル等の一部の薬剤は、銅剤の近接散布で効果が低下するため、使用前にラベルやチラシの注意書きをよく確認する。
- ・ハダニ類に対する、天敵製剤の放飼や土着天敵の保護利用に取り組む園地では、天敵に影響のある薬剤の使用をできるだけ控える。ただし、カメムシ類の発生時には、果実を直接加害される懸念があることから、必要に応じて防除を行う。

表1 なしのハダニ類に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年7月24日現在）

農薬名	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	成分	農薬の系統	IRAC コード 注1)
コロマイト水和剤	2000倍	収穫前日まで	1回	ミルベメクチン	マクロライド	6
カネマイトフロアブル	1000～ 1500倍	収穫前日まで	1回	アセキノシル	アセキノシル	20(B)
マイトコーネフロアブル	1000～ 1500倍	収穫前日まで	1回	ビフェナゼート	ビフェナゼート	20(D)
ダニゲッターフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回	スピロメシフェン	環状ケトエノール	23
ダニコングフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回	ピフルブミド	カルボキサニリド	25B
ダニオーテフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回	アシノナピル	アシノナピル	33
アカリタッチ乳剤注2)	1000～ 2000倍	収穫前日まで	－	プロピレングリコ ールモノ脂肪酸エ ステル	脂肪酸（気門封鎖）	未分類
ムシラップ注3)	500倍	収穫前日まで	－	ソルビタン脂肪酸 エステル	その他（気門封鎖）	未分類
粘着くん水和剤注4)	500倍	収穫前日まで	－	デンプン	その他（気門封鎖）	未分類

注1：薬剤感受性低下を防ぐため、IRACコードの異なる薬剤のローテーション散布に努める。

注2：果樹類（りんご、おうとうを除く）

注3：果樹類

注4：果樹類（かんきつを除く）

詳細は、農業総合研究センター（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（旧ツイッター）（@tochigi_nousei）」、栃木県農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農業危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！

